

平成 22 年度 普及に移す農業技術(第 1 回)

[分類] 普及技術

[成果名] グラジオラスのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブルが有効である

[要約] グラジオラスのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブル 2,000 倍液を散布する。

[担当] 野菜花き試験場環境部・花き部

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

アブラムシ類は、その吸汁による被害とウイルス媒介昆虫として重要害虫となっている。本種を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、グラジオラスに対する薬害の有無を検討する。試験は平成 17 年に実施し、平成 20 年 8 月に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) グラジオラスのアブラムシ類防除にアドマイヤーフロアブル 2,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

アドマイヤーフロアブル

[一般名および成分含有量] イミダクロプリド 20.0%

[毒性] 人畜毒性：劇物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況(平成 22 年 10 月 8 日 JPP-NET 確認)]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	イミダクロプリドを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	2,000	100～200 L / 10 a	発生初期	5 回以内	散布	5 回以内

3 利用上の留意点

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので(アドマイヤー水和剤 2,000 倍の安全基準日数：稚蚕期、壮蚕期とも 50 日以上)、桑園付近では使用しない。
- (2) ミツバチに対して強い影響があるので、巣箱およびその周辺に飛散するおそれのある場合には使用しない。また、養蜂などが行われている地域では圃場周辺への飛散に注意するなど、危害防止に努める。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) アドマイヤーフロアブル 2,000 倍液散布について、グラジオラスのモモアカアブラムシに対する防除効果試験を平成 17 年に野菜花き試験場で行った。対象害虫の発生状況は中発生であった。アドマイヤーフロアブルは高い防除効果を示した。薬害は認められなかった(表 1)。

表1 グラジオラスのモモアカアブラムシに対するアドマイヤーフロアブルの防除効果  
(平成17年、野菜花き試験場)

供試薬剤	希釈倍数	処理前			3日後			
		葉	花蕾	合計	葉	花蕾	合計	
アドマイヤーフロアブル	2,000	12	98	110	0	0	0 (0)	
無処理	-	12	92	104	30	148	178	

  

供試薬剤	希釈倍数	6日後			9日後			薬害
		葉	花蕾	合計	葉	花蕾	合計	
アドマイヤーフロアブル	2,000	0	0	0 (0)	0	0	0 (0)	なし
無処理	-	36	154	190	38	140	178	

値は2反復の合計値(6株)。( )内は補正密度指数。

補正密度指数 = (処理区の処理後密度 × 無処理区の処理前密度) / (処理区の処理前密度 × 無処理区の処理後密度) × 100

試験場所：長野市松代町 野菜花き試験場内施設 発生状況：中発生 品種：「若紫」、「緑波」(各区とも両品種を供試した)。定植：7月7日 区制・面積：1区3プランター15株、連制

処理方法：10月13日(開花始期)に規定濃度の薬液を背負い式動噴を用いて10aあたり200L散布した。

試験時に同様な処理剤の農薬登録がなかったため、対照区は設置しなかった。

調査方法：各区の3株について、処理前(10月13日)、3日後(10月16日)、6日後(10月19日)および9日後(10月22日)に生息するアブラムシ個体数を調査した。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験、平成17年度(2005年度)、民間受託